

第33号

発行日
2021. 6. 3

Super
Highway

JR東労組バス関東本部



JR東労組ホームページ

バス関東
第7号

2021年度夏季手当等に関する申し入れ

第1回交渉(趣旨説明)を行いました!

- ・JR 東労組はこの間、コロナ禍における社会の変化と、会社の危機的な経営状況を認識し、安全を最大の価値機軸に据え、この赤字・コロナ禍を乗り越えるべく黒字経営を目指し、雇用と生活を守る議論をしてきた。
- ・2月の東北地方地震の際は、組合員の協力により東北新幹線の列車代行を成し遂げることができた。慣れない路線でも安全に輸送を貫徹することができたのは乗務員の積み上げられた経験や知識があったから。
- ・車両係においてはスカニアの業務受託や他会社のバス・トラックの整備、オリンピックに対応した中古車両の整備など、コロナ禍であってもこれまでと変わらない業務に加え、新たな業務にも着手し、バス事業の基礎となる安全・安定輸送を支えてくれている。
- ・2021 年度経営目標の取り組みでは「新城基地関係」「老朽車両の代替」「システム更新」に絞って投資をする考えが示されているが、それと同様に組合員・社員の雇用と生活を守るため、将来に希望が持てるJRバス関東を目指していくためには人への投資が必須である。
- ・アフターコロナで交通が復活したときに全社員が躍動できる環境となっていなければ会社の将来にも影響を及ぼす事態にもなりかねない。

バス関東
組合員の
声を
寄せられた
本部に

- ・ 昨年からの収入減で**将来設計を変更せざるを得ない**
- ・ 今までと同じ、もしくはそれ以上の業務量をこなしているのに、**その努力に対する評価が無い**
- ・ ボーナスが高かったからこの会社を選んだのに**ボーナスも減らされ、定昇も減らされ魅力ある会社ではなくなった**
- ・ 貯金を切り崩しながら生活をしている。**アパートを借りてまで、この会社で働く理由が無い**



会社の期末手当に対する考え方

- ・ 2021 年度については、黒字必達を目標に掲げ、社員の日々の奮闘は見ているが、4月、5月も3回目の緊急事態宣言という中で厳しい状況である。
- ・ 社会インフラの使命を担っている中での奮闘、東北新幹線の代行輸送や常磐線の代行輸送、車両職場、営業職場、運行管理、日勤、運輸業に至る全ての社員がコロナ禍で努力をしていることについては評価している。
- ・ 昨年冬のボーナス交渉、賃上げ交渉でも非常に厳しい経営判断をせざるを得なかった状況は否めない。今夏の状況も非常に厳しい交渉に臨まなければいけない認識である。
- ・ 収入減において社員、組合員のみなさんが非常に苦しんでいることについては、昨年より強く認識している。

満額回答を勝ち取るために、職場から声を上げよう!